

# 点訳通信

## 115号

日本ライトハウス情報文化センター  
点字製作係  
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F  
Tel 06-6441-1028(点字製作係直通)

3月に行われた法人創立100周年記念式典に、瑤子女王殿下がご臨席されました。挨拶をする機会を与えていただき、少しお話させていただきました。殿下も小さい頃、点字を学ばれたご経験があり、「点字を読まれる方は増えていますか？」とお尋ねになられたほか、視覚障害福祉にも大変関心を寄せてくださっていました。常に社会に目を向けてくださっていることをありがたく思うとともに、感謝の気持ちに包まれるひとときとなりました。  
(点字製作係 奥野真里)

## 休館・休室等のお知らせ

- 4月13日(木) 職員会議のため15時から休館
- 4月28日(金) ボランティア交流会のため午後休室
- 4月29日(土) 祝日のため休館
- 5月 3日(水)～5日(金) 祝日のため休館



## 2023年度点訳ボランティア養成講習会のお知らせ

今年度も初級・中級コースにわたり、点訳講習会を行います。  
初級コースは5月12日～7月28日(6月30日を除く、金曜13:30～15:30)の全11回です。それに先駆けて、4月21日(金)13時半から、オリエンテーションと事前試験を行います。申し込み締め切りは4月7日(金)。もし点字に関心をお持ちの方がお近くにおられましたら、ご紹介ください。  
詳細は、当館ホームページ「講習会・イベント情報」、もしくは当館点字製作係までご連絡ください。

## 新任職員の紹介

2023年1月から点字製作係に西岡貴美子にしおか きみこ職員が加わりました。どうぞよろしく願います。

なお、山原瑞穂やまはら みずほ職員は3月末で退職いたしました。3年間ありがとうございました。

## 新人ボランティアのご紹介

2022年度点訳ボランティア養成講習会を修了された10の方が、今年1月から各曜日に2人ずつ加わられました。以下に、自己紹介をしていただきます。

### 「火曜日」

みずたに かずみ  
★水谷 和美

私が点訳を始めようと思ったきっかけは、駅の券売機の墨字と点字の文字数が明らかに違ったのを見て、点字ではなんて書いてあるのだろうと思った事です。趣味は旅行で岬や滝を見に行く事が好きです。活動を始めて感じていることは、漢字の読みの難しさと先輩方のご指導の手厚さです。これからもまだまだわからない事が沢山出てくると思っていますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

みやもと ようこ  
★宮本 洋子

最初は音訳を希望していたのですが、受講の選外となってしまいました。そんなとき「点訳ってどんなだろう？」という軽い好奇心から、私にとって新しい文字「点字」とのお付き合いが始まりました。

最近は「点訳は編み物に似ている」と感じます。せっせと編み続けていたら、大きなひざ掛けができあがる…そんな感覚は1冊の図書を点訳すると思うのです。このひざ掛けが、読む人の心を温かくしてくれるといいなあと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

### 「水曜日」

おがさわら けいぞう  
★小笠原 恵三

昨年のある春の日、なんとなくパソコンでネット検索をしていると、目の前に現れたのがライトハウスのサイトでした。点訳のための講習があること、その募集期限が2日後に迫っていることを知り応募を決めました。試験があると知り一瞬、「聞いてないよ～」と思いましたが、今更やめますともいえず受験、たまたま合格。出会いとはこんなものかと思いつつ受講し、回数が進むにつれ大変な世界に首を突っ込んでしまったことに気づき、いつ尻尾を巻いて退散するか思い悩むうちにそのタイミングを失い、現在に至っています。

こんな私が少しでも役に立つ日が来るのでしょうか。えっ？それはあなたの努力次第ですって…そだね～(もう古いか)。よろしくお願ひいたしま～す。

ふない ゆきこ  
★船井 由紀子

6点の組み合わせで表される点字に興味があり、その文字が分かるようになれば誰かの役に立てるかもしれないという思いで参加した講習会で、点訳の奥深さに出会いました。「点訳ボランティアが務まるのか？」という不安と、やりたいという気持ちとが入り混じったまま始めましたが、現状は四苦八苦といった状況です。自分でもあきらめるぐらい点字が読めず、国語力の未熟さも痛感しています。ただ、点訳の楽しさも感じていますし、先輩方のご指導や励ましにも勇気づけられています。

少しずつでも前に進みたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 「木曜日」

くりたに ひろこ  
★栗谷 博子

10年ほど前からボイスネット(パソコンサポート・ボランティア)に参加させていただいていたのですが、この度、点字でも活動させていただくことになりました。

これまで、ICTサロンやガイドでお会いする視覚障がいの方が、点字をスラスラ読み書きされることに、ずっと感心していました。サピエを利用される方も多く、私もなにかお手伝いできたらと思っていました。遅まきながらやっと時間がとれるようになり、講習会に参加することができました。

まだまだ始めたばかりですが、自宅でもできるボランティアとして、ずっと続けていきたいと思っています。今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

こぎえ けいこ  
★漕江 圭子

きっかけは、ふと思い立った時に会った講習会の情報でした。養成講習会を受けていた去年の約8か月間は、先生方にわかりやすく教えていただき、今まで全く読んだり書いたりできなかった文字が少しずつ理解できるようになり、本当に嬉しく思う日々でした。

今年の1月よりボランティアの一員として、よちよち歩きを始めました。自然の中を歩くことが好きなのですが、同じように、楽しくゆっくりと点訳を続けていければと思っています。責任のあることですし、緊張もしていますが、職員やボランティアの先輩の皆さんにやさしくご教示いただきながら、少しずつ、様々な本にも挑戦できたらいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「金曜日」

たかい そのこ  
★高井 園子

無事に(?)講習を修了し、初めての点訳本は、感動の青春小説!です。講習中は、「分かち書きって何?漢語?和語?数字覚えられない!それ以上にアルファベットって覚えられない!しかも大文字、小文字…いや、その前に漢字が読めない…日本語難しい」と毎回消化不良で、解らない所を見て見ぬふりをし、なんとか宿題をこなしてきました。それでも初めての点訳本は、講習中の宿題より気持ち的に楽に進められていると思います。

平日は仕事をしており隔週で参加しています。かなりゆっくりしたペースで進んでいると思いますが、細く長くを心がけ取り組んでいます。よろしくお願いいたします。

ながよし  
★永吉 ひとみ

和泉市在住です。3年前に永く勤めた仕事を定年退職し、翌年度、市主催の初級点字講習会を修了しました。その後1年間は、市の点字ボランティアの活動をしていましたが、昨年ライトハウスの点訳講習会中級コースを受講し、今年から金曜日の点訳ボランティアに参加させていただいております。

点訳以外では、市の小学校への福祉授業や広報録音などのボランティア活動、スポーツ教室への参加やウォーキング、加えてお城めぐりを兼ねた旅行など、楽しい日々を過ごしています。早く独り立ちし、皆さまとともに点訳活動の進展に努めたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

## 「土曜日」

いなだ ひろえ  
★稲田 弘江

点訳ボランティアの活動を始めて約2カ月経ちました。先輩方のお力を借りながら、慣れない点訳に悪戦苦闘しています。

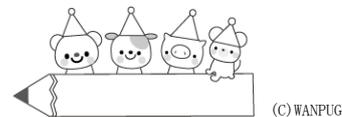
初めて担当した本は日本に住む外国人のインタビューを基にしたエッセイです。本には難民申請中の人、宣教師、スポーツ選手など20人の人生が語られています。読み進めながら、困難にも諦めることなく懸命に生きている人々の姿に胸が熱くなることも多々ありました。多分、点訳を始めなければ出あわなかった本だと思いますが、これも点訳の楽し



みの一つなのだと感じました。最初の1冊がこの本で良かったと思います。次にどんな本に出あえるのかを楽しみにしながら、励んでいます。

ふくだ しんや  
★福田 真也

新しく点訳ボランティアとして活動に加わりました、福田です。今は初めて与えられた本の点訳に取り組んでいますが、皆さんの支えがなければ作業を進めるのはとても難しいと感じています。今後ともよろしく願いいたします。



## 二校正から見えてくること

二校正者と点訳者とが直接やりとりする機会が徐々に減ってきていることを受けて、「二校正の方が、点訳資料を読んでどのような印象を持っておられるのか知りたい」という声をいただきました。今後、対面で校正の勉強会等を持つことも考えていますが、まずは二校正者の方に最近感じておられることをお聞きしました。 (点字製作係 奥野真里)

## 最近の二校正を振り返って

二校正担当 ひらの けん  
平野 健

2018年から22年までの最近5ヵ年の二校正表を読み返してみました。

全194タイトル664巻の校正表を分析すると、以下のようになります。

筆者は情文で二校専門に転じて約25年、およそ1千タイトル担当してきましたが、この2月、全3巻以上のもので初めてパーフェクト(修正必要箇所ゼロ)に出あいました。この場で深く敬意を表したいと思います。

これまでの校正表の内容は、単純な誤字・脱字が半数以上で、なぜこのようなものが二校に回ってくるのかと首をかしげてしまうような、誤字がいたるところに見受けられるものも少なくありません。このような間違いは点訳者自身が読み返せば気がつくはず。入力してから読み返す習慣のない人は、一校や二校に提出する前に必ず読み返す習慣を身につけてほしいと思います。ちなみに、点訳をして何日か経ってから読み返した方が、点訳の内容が記憶から薄れているので、誤りを発見しやすいことも書き添えておきます。

漢字の読み違いもかなり多いと思います。これは点訳者自身では発見できないため、校正者が指摘しなければならず、点訳者は指摘された誤読漢字を自身でノートなどにまとめておくべきだと思います。また、分かち書きで指摘された箇所や内容も必ずノートにまとめておき、次回以降で生かしていただきたいです。

分かち書きの基本中の基本である、付属語(助動詞・助詞)は前の語に続けますが、なぜかマスあけされている箇所がかなり多いと感じます。これも読み返せばすぐに気がつくことなので、読み返しをしっかりとってほしいです。

第1カギ閉じ記号、感嘆符の後ろが1マスあけになっているところも多い。1文の区切りを示すこれらの記号の後ろは2マスあけ。1マスあけの場合の用例は「手引き」をよく読んで習得してください。

その他多くの点訳者に共通した誤解内容を列挙します。

1. 「～当たり」と「～■辺り(周辺)」の違い  
【例】この金額は、一日に消費する一人当たりの電気代です。  
今度、梅田辺りで会いましょう。
2. 「一度(に)」の数字か仮名の使い分け  
【例】これまで電話でしかお話していませんので、一度直接伺いたと思います。  
一度に荷物を運べるトラックがあると良いのに。(まとめた意)
3. 「1番(2番ではない)」と「一番(もつもの意)」の違い  
【例】麻婆豆腐が、お店一番のお薦めメニューらしい。  
コンサートで一番前の席を予約することができた。(もつもの)
4. 「一種の」の数字か仮名の使い分け  
【例】花粉症の症状の一種として、目が痒くなることがある。  
この症状は一種の花粉症だ。(かな)
5. 「・・・過ぎる」は自立語ではない  
【例】熱心過ぎるくらいの指導を受けることができた。  
その格好は少し目立ち過ぎるのではないのでしょうか。
6. 「そのうえ」と「その■うえで」の違い  
【例】漢字のドリルの宿題があり、そのうえ感想文も提出しなくてはいけない。  
一晩よく考え、そのうえで決めた。
7. 「同(おなじ)」と「同(その)」の違い  
【例】私が頼りにしている人は、同学校に通う友人だ。(同じ)  
近所に進学校が開校し、私は4月から同学校に通う。(その)
8. 「(が)なくなる(無になる)」と、「(では)なく■なる」の違い  
【例】買う人が殺到したため、すぐに限定商品がなくなった。  
そのうちに、マスクが必要ではなくなる日が来るはずだ。
9. 「・・・ならぬ(ならず、ならざる)」は自立語ではない  
【例】その試験に合格するとは、並々ならぬ努力があったのだろう。  
他ならぬ君の頼みなら、無下にはできない。
10. 「・・・ほど」は助詞である(形式名詞のほど=程との違い)  
【例】釣った魚は1メートル程もあった。  
ご了承の程、お願いいたします。
11. 「ものだ(ものか、ものさ、ものよ)」の「もの」は名詞  
【例】集中していると、時間が経つのは早いものだ。  
若い頃は徹夜してまで遊んだものよ。



12. 範囲を示す場合の和語読みする数字には気をつける。

【例】この旅行は、3～4日のプランです。（「3～4日」「みっか～よっか」）  
一袋に玉ねぎが四～六つ入っている。（よつつ～むつつ）

このほか、複数ある漢字の読み方や、人名・地名などの固有名詞、特殊な専門用語など、辞書で丁寧に調べ、どのように読めば良いか、文脈に合った読み方を判断することも必要です。



(C) WANPUG

## 専門点訳講習会のお知らせ

2023年度は、下記の2コースを予定しています。詳細が決まり次第、当館のホームページ等でお知らせします。

### 1. マンガ点訳コース

日時：2023年7月6日・13日・20日(全3回)、毎週木曜日10時～15時

定員：15人

概要：シリーズもの・4コママンガ・書籍の中のマンガなど、マンガを用いて表現される書籍を読者に伝えるには、どのように言葉で説明すれば良いかを考えます。

### 2. 点字の世界を追求する触知コース

※同じ内容を2回行います。

日時：

①2023年5月18日・25日(全2回)、いずれも木曜日10時～15時

②2023年6月24日・7月1日(全2回)、いずれも土曜日10時～15時

定員：各回30人

概要：パソコン点訳が主流になった今、点訳者が凹凸のある点字そのものに触れる機会が少なくなっています。「触って読む」とはどういうことなのか、なぜ点字はレイアウトが重要なのか、点図の点の大きさや点間にはどのような意味があるのか。点字の世界を理解し、点訳者に求められる技術とは何かを考えます。



(C) WANPUG



(C) WANPUG

## 「表紙・目次・奥付の書き方」の例の点字表記の誤りについてお詫び

2022年7月に発行した「表紙・目次・奥付の書き方」の例の中で記載に誤りがありました。以下の4カ所の改行マークを削除していただきますようお願いいたします。ご迷惑をおかけし、申し訳ありません。

・ISBNが2行にわたる時、1行目の行末にある改行マーク。

p 20 例1「最強に面白い！！食と栄養」

p 22 例2「黒い同盟」

p 26 例4「ますます心とカラダを整えるおとなのための1分音読」

・URLの1行目の行末にある改行マーク。

p 22 例2「黒い同盟」